

平成23年度 府立久御山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>府立高校に期待される役割は、多様な生徒の個性に対応した教育を行うとともに、21世紀の日本社会を担う有為な人材を育てることである。</p> <p>本校は、久御山町内で唯一の府立高校であるという立地特性を活かし、地域・保護者に信頼され、その期待に応える教育活動を推進することが重要である。そのためには、本校が目指す文武両道教育達成のため、道徳規範や生活規律の徹底を図るとともに、自ら学ぶ学習習慣を確立し、高校教育の総和である希望進路の実現に向けた取組を全力で進める必要がある。</p> <p>1 基本的学習習慣の確立を図るとともに、教養ある豊かな人間性を育み、よりよき人格の形成に努める。</p> <p>2 一人ひとりの学習意欲を育て、確かな学力を身に付けるとともに、自己実現を目指す自立した人間の育成に努める。</p> <p>3 21世紀をリードする創造性と、よりよい社会の形成に主体的に参画する人材の育成を目指す。</p>	<p>1 組織力の強化と教師力の向上を見据えた校内組織体制の充実と実効性ある教職員研修の充実を図る。</p> <p>2 生徒の能力・個性に応じたクラス編成を1年次から行い、共通の教育課程に基づく授業を充実させるとともに、希望進路の実現を目指す。また、新学習指導要領の趣旨をふまえ、本校の実態に適した教育課程の研究を進める。</p> <p>3 学校の特色である部活動に「確かな学力と豊かな涵養」を加え、真の文武両道を目指し、地域・保護者にとっては開かれた、中学生にとっては入学したい学校となるべく一層の努力を図る。</p>	<p>1 確かな学力の向上と豊かな教養の涵養（学び直しの学校全体での位置づけの確立）</p> <p>2 全校体制での始業前10分間の有効活用と実践（朝読・課題テスト等）</p> <p>3 希望進路の実現（国公立大二桁及び中堅私大100人以上の達成）</p> <p>4 授業内容の改善・充実（家庭・自主学習時間0時間生徒の根絶）</p> <p>5 部活動の充実と加入率維持・向上（入部率80%達成）</p> <p>6 原級留置・中途退学・安易な転学の防止（限りなく0人の達成）</p> <p>7 チーム久御山の学校力醸成</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
(1) 組織・運営	学校運営体制の強化を図る。 学校評価の充実に努める。	重点目標の徹底を図る。 学校評価・授業評価を実施し、その結果を積極的に公開し、学校評議員等から本校教育活動についての意見を求め、改善に生かす。		
(2) 教育課程の編成と実施	特色ある教育課程の編成 個に応じた適切な指導	新学習指導要領の研究を進め、移行措置と教育課程の編成を行う。 生徒の個性に応じた選択科目、学校選択科目や総合的な学習の時間を工夫し、学力の定着を図る。		
(3) 学習指導	学習環境の整備と授業規律の向上 自学自主の定着と教科の指導力の向上	ベル着、あいさつ等の啓発を行い、学習状況調査を定期的実施する。 各コースの特色に応じた授業計画・目標に基づき、新しい学習観を踏まえた適切な学習評価を実施する。（教科主任会議との連携）		
(4) 特別活動	部活動を特色ある学校づくりの一つとし	部・同好会を整理し、加入率の向上（80%）を目指すと共に、部活動をより活性化させ、一層の充実に努める。		
(5) 生徒指導	問題行動を起こさせない生徒指導に努める。 防犯体制・防犯教育の充実を図る。	警察と連携し、交通安全指導を充実させ、交通ルールやマナーの向上を図る。 緊急時の対応体制の確立、日常の校門指導（遅刻指導）、校内巡回指導（盗難防止等）体制を継続し、実行する。		
(6) 進路指導	各学年部及び各教科との連携を充実させる。 生徒の多面的な理解と、指導の計画に基づく系統的な指導を行う。 進路情報の収集・整理・管理を適切に行い、積極的かつ適正にその活用を図る。	各教科と連携し、講習体制づくりを行う。また、模擬試験等のデータ提供を行い、各教科の指導に活用してもらう。 新入生には進路3年計画、また各学年ごとに進路年間計画を配布説明し、高校生活の一つの指針とさせる。 実力テスト・模試の分析・データ提供を行い、生徒の自己分析と教員の指導に役立てる。FINEシステムの活用も行う。		
(7) 人権教育	特別支援と適応指導の推進。	適応指導会議等で特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーと連携し支援の必要な生徒の早期の把握と適切な対応を図る。		
(8) 図書館指導	図書館資料や設備を充実させる。 図書館資料の提供や文化的行事を企画することにより、教育活動を支援する。 読書の推進を図る。	コンピュータによる図書管理システムを導入する。 新しい形態での団体鑑賞を成功させる。 教育検討会議に参画し「朝の読書」の改善に取り組む。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
(9) 健康・安全	健康・安全管理の徹底を図る。	学校保健安全計画に基づき、適切な健康診断、健康調査、事後指導、健康相談を徹底する。			
	健康安全教育・環境教育の充実、推進を図る。	飲酒・喫煙防止教育、薬物乱用防止教育、エイズ等感染症や熱中症等の予防教育等、健康教育を推進する。			
	教育相談活動の推進を図る。	各分掌との連携を密に、関係各種会議を有機的に機能させるとともに、2人のスクールカウンセラーの効果的な活用を図る。			
(10) 研究・研修	今日的課題を解決するための研究・研修に努め、教職専門性を高める。	今日的な教育課題の理解及び本校教育活動に係る課題解決のための研修を積極的に実施し、資質向上を図る。			
	サービス規律の確保に努める。	サービス規律の確保			
(11) 安全管理	環境保護・美化活動の推進により学習環境の充実を図る。	ゴミの分別を徹底させる。またゴミ総量の減少に努める。			
(12) 情報・文書管理	校内の文書管理の中心を担う。	文書管理（磁気データの出力・持出し等）に関する運用管理システムの構築に向け取り組む。			
	文書業務・成績処理の効率化・正確化を図る。	校内LANの管理運営、サーバーの管理運営等、コンピュータ関連の情報管理システムを構築する。			
(13) 開かれた学校づくり	広報活動（情報発信）を積極的に行う。	広報資料を作成・配布し、中学校訪問を積極的に行い、本校の教育活動について、様々な機会を用いて説明する。 山城通学圏府立高校合同説明会の実施に向けた取組みの充実を図る。			
(14) 学校行事	様々な新規学校行事を企画し学校を活性化させる。	教育検討会議を運営し、始業前10分間（昨年度「朝の読書」の時間）の有効活用や研修旅行などについての企画・検討に取り組む。			
<p>[課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> 組織力の強化と教師力の向上を見据えた校内組織体制の充実と実効性ある教職員研修の充実を図る。 生徒の進路目標や習熟度に応じたクラス編成と柔軟な教育課程を基盤とした授業を更に充実させるとともに、進路実績の向上を目指す。また新学習指導要領の趣旨をふまえ、本校の実態に適した教育課程の研究を進める。 学び直しを核とした分掌・教科横断的な取組による独自の自主教材や学力診断テストなど学習指導システムの構築を図る。 真の文武両道を目指し、地域・保護者にとっては開かれた、中学生にとっては入学したい学校となるべく一層の特色化を図る。 					
次年度に向けた改善の方向性					